

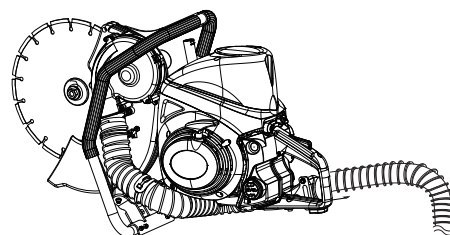
Mikasa

エンジンハンドカッター

MCH-302BS



(社)日本陸用内燃機関協会
小形汎用エンジン
排出ガス自主規制適合証



取扱説明書

ja

三笠製品をお買い上げいただきありがとうございます。
ご使用前に本書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に保管してご利用ください。



<http://www.mikasas.com>

601-03301



目 次

安全にご使用いただくために	3
1 付属品の確認	6
2 各部の名称と警告表示ラベル	7
3 作業の準備	8
3-1. 刃物の取り付け	8
3-2. 集塵ホースとダストバッグの取り付け	10
3-3. エアダクトの使用法	10
3-4. 燃料の準備	11
3-5. 潤滑油の準備	12
3-6. オイルセンサー	13
4 運転	14
4-1. 刃物ブレーキの操作と確認	14
4-2. エンジンの始動	16
4-3. エンジンの停止	19
5 切断作業	20
6 点検・整備	25
6-1. 点検・整備の目安	25
6-2. 点検・整備要領	26
7 保管	32
8 故障対策	33
8-1. 故障診断表	33
8-2. 製品の廃棄	33
9 仕様	34
10 振動障害の予防	35
10-1. 日振動ばく露量 A(8)	35
10-2.1 日に複数の振動工具を使用する場合	36

安全にご使用いただくために

警告表示について

 危険
その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

 警告
その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

 注意
その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

その他の表示について

	丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものがすべて禁止されていることを表します。
---	---

重要
重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている製品の使用、点検、保守、保管に関する重要な注意事項です。

シンボルマークについて

シンボルマーク	意味	シンボルマーク	意味
	ご使用前に取扱説明書をよく読み、正しく作業すること		キックバック注意
	作業中は保護具を必ず着用すること		レギュラーガソリンを使用すること
	通気の悪い場所で製品を使用しないこと		2サイクルオイル
	火気を近づけないこと		のこ刃は使用しないこと
	電気ショックに注意すること		欠け、割れ、ねじれのある刃物の使用禁止
	高温部に注意すること		切断時の火花による発火に注意すること
	エンジン停止		エアフィルタは圧縮空気で清掃しないでください
	オイル残量が下限ラインに近づくと、センサーが作動しエンジンが停止します		

○ 製品の特徴

この製品は**分離給油**方式を採用しています。
レギュラーガソリンと2サイクル専用オイルを別々のタンクに給油すると自動的に混合して、エンジンに供給する仕組みです。
あらかじめ混合燃料を作る手間を省くことができます。

この製品は**Softスタート**方式を採用しているので、エンジン始動時にスタータグリップを軽く引くことができます。

安全にご使用いただくために

重要なお知らせ



警告

製品をご使用になる前に、取扱説明書を必ずお読みください

取扱説明書

- この取扱説明書には、製品の組み立てや操作、点検・整備に必要な事項が書かれているので、よく読んで理解してください。
- この取扱説明書は、いつでも読めるように保管してください。
- 製品の改良のため、予告なしに内容を変更することがあります。
- 使用している図は説明をわかりやすくするため、現品と異なる場合があります。
- 損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から新たに購入してください。

事故や重傷を負う原因となります。



製品の使用目的以外の使用禁止

- この製品は、コンクリートを切断するために作られたものです。記載されている用途以外に使用しないでください。

事故や重傷を負う原因となります。

製品の改造禁止

- 製品を改造しないでください。

事故や重傷を負う原因となります。

点検・整備をしていない製品の使用禁止

- 定期的に点検・整備をしてください。

事故や重傷を負う原因となります。

製品の貸与、譲渡

- 製品を貸すとき、譲るときは、この取扱説明書も渡してください。

事故や重傷を負う原因となります。

製品の使用者

- 体調不良、疲労している、酒類を飲んでいる、薬物を服用しているなど、体調が万全でないときは使用しないでください。
- 次のような人は使用しないでください。

- ◆ 妊娠している人
- ◆ 16 歳未満の人
- ◆ 取扱説明書の内容を理解していない人

事故や重傷を負う原因となります。

- この製品から発生する電磁波が、ペースメーカーなどの植込み型医療機器に影響を及ぼす可能性があります。健康上のリスクを避けるため、植込み型医療機器を使用している人は、製品を使用する前にかかりつけの医師、または植込み型医療機器の製造元に相談してください。

レイノー現象の症状に注意

- 指に不快感、赤み、腫れがあり、白くなったり感覚がなくなったことのある人は、製品を使用する前に医師に相談してください。

指にレイノー現象と呼ばれる症状が現れることがあります。



安全にご使用いただくために



警告

健康管理

- 休憩をとりながら余裕を持って作業をしてください。手足や身体を温かくしてください。
- 作業中に体調が悪くなった場合はすぐにエンジンを停止し、作業を中止してください。
- 厚生労働省の通達は次のとおりです。

- ◆ 1日の操作時間：「周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値」より算出してください。35ページの「振動障害の予防」参照（最大でも2時間以内）
- ◆ 1回の連続操作時間：30分以内
- ◆ 1回の連続操作後の休止時間：5分以上

健康障害を受ける恐れがあります。

服装の点検

- 身体に合った作業衣を着用し、次のことを守ってください。

- ◆ 上着（長袖）のボタン、ファスナを完全にし、袖口をきちんと閉め、すそはズボンに入れる
- ◆ ズボンはすそ閉まりの良い長ズボンとし、すそは作業靴の上部にはさみ込む
- ◆ ネクタイや装飾品は着用しない
- ◆ 髪の毛は肩より上でまとめる

事故や重傷を負う原因となります。

保護具の着用

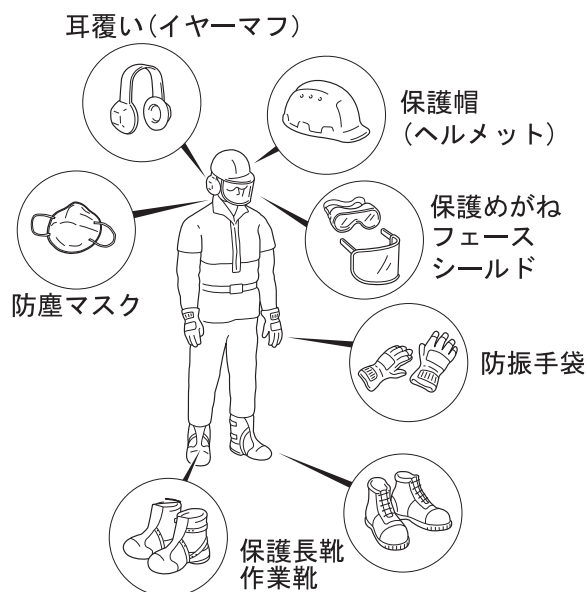
- 下記の保護具を着用してください。

- ◆ 保護帽（ヘルメット）：頭部の保護
- ◆ 保護めがね（ゴーグル）：目の保護
- ◆ 防塵マスク：呼吸器の保護
- ◆ フェースシールド：顔の保護
- ◆ 耳覆い（イヤーマフ）や耳栓：聴力の保護
- ◆ 防振手袋：寒さや振動から手を保護
- ◆ 滑りにくい丈夫な作業靴（先芯入り）：足の保護

視覚障害、聴覚障害、重傷などを負う原因となります。

- 必要に応じて下記の保護具を着用してください。

- ◆ 丈夫で不燃性材質で作られた作業衣



製品の使用環境・作業環境

- 次のような場合は製品を使用しないでください。

- ◆ 雨天時や落雷の恐れがあるとき
- ◆ 急傾斜地や足元が不安定で滑りやすい場所
- ◆ 夜間や視界が悪い場所

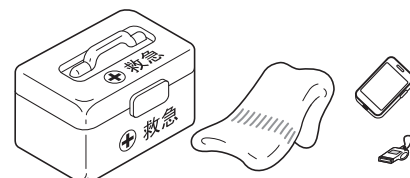
転落や滑落、誤った操作などにより、事故や重傷を負う原因となります。

事故やケガへの備え

- 事故やケガに備え、下記の用具を用意してください。

- ◆ 救急箱（応急手当用）
- ◆ タオルや手ぬぐい（止血用）
- ◆ 呼子や携帯電話（外部との連絡用）

応急手当や外部への連絡ができず、症状が悪化する恐れがあります。



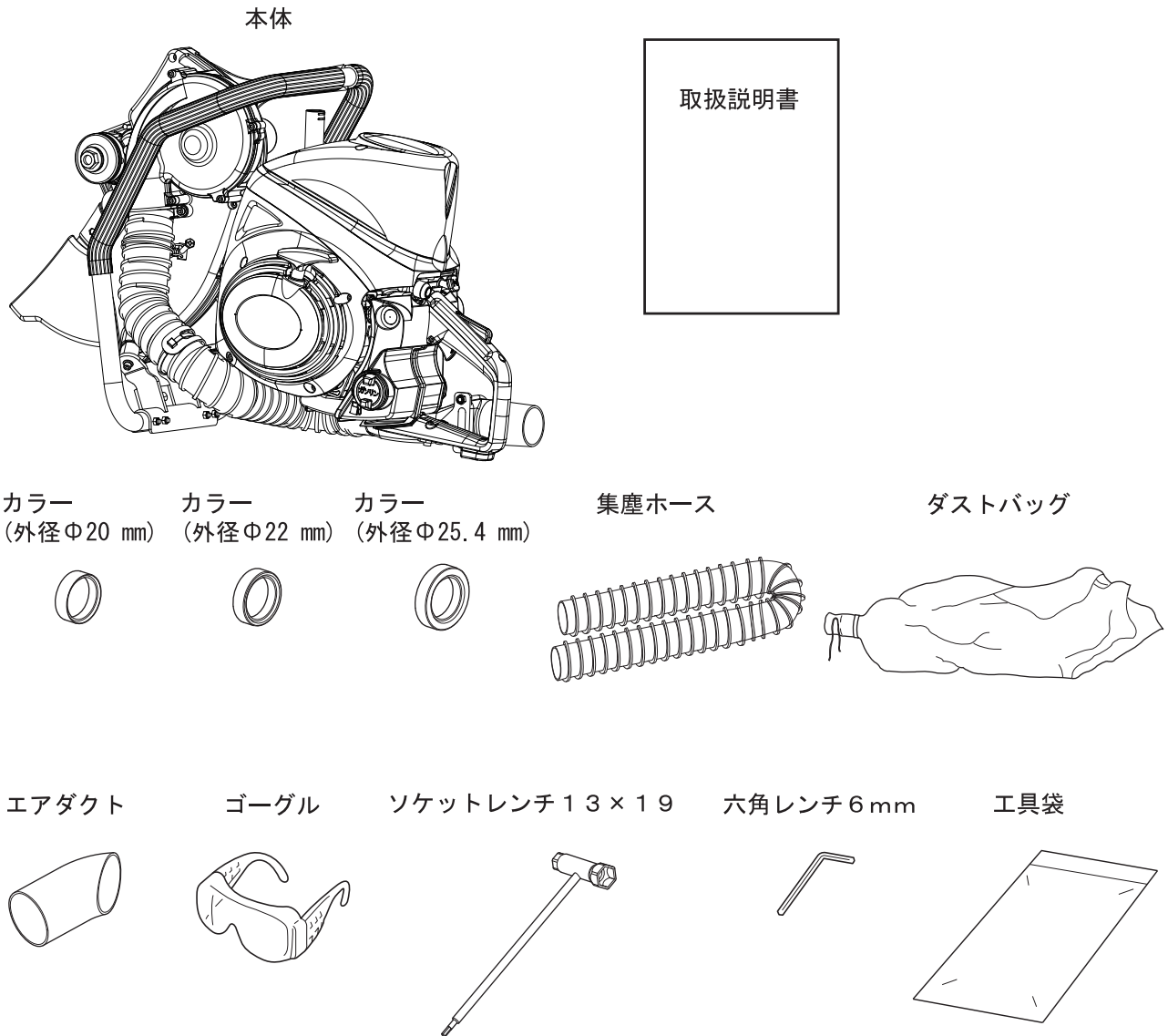
発火・発煙・火災への備え

- 発火・発煙・火災に備え、消火器やシャベルを用意してください。
- エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、身体から製品を離し、身体の安全を確保してください。
- 周囲に類焼しないようにシャベルで砂を掛けるか、消火器で消火してください。

あわてて対処しようとすると、火災やその他の傷害の拡大につながります。

1. 付属品の確認

○ 欠品や破損などがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

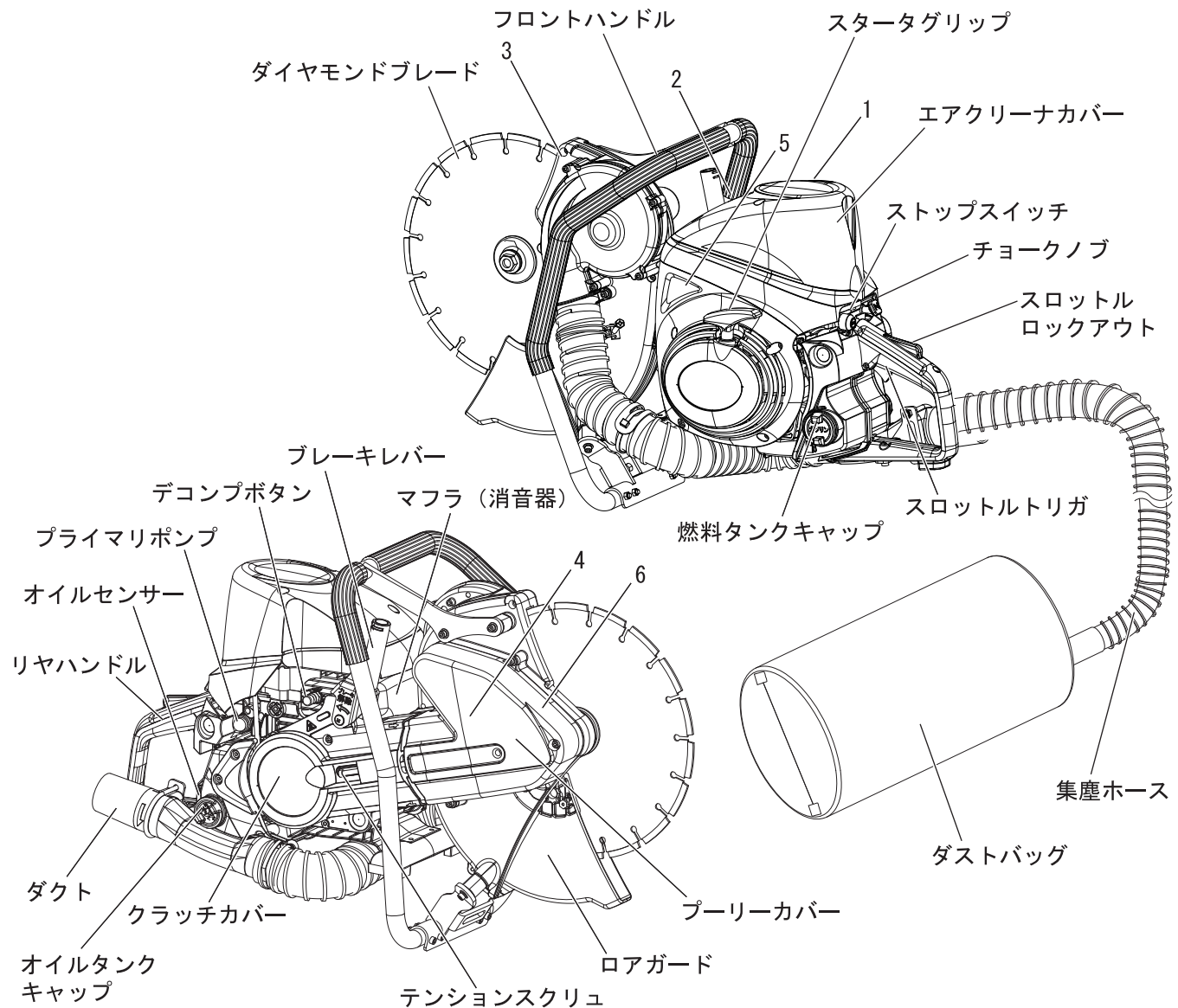


2. 各部の名称と警告表示ラベル

○本書で説明している製品の、各部の名称および警告表示ラベルを示しています。

ご使用前に各部の名称およびラベルの意味を理解してください。

○ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店からラベルを購入し、下図に指示してある箇所に貼り、常にラベルが確認できる状態にしてください。

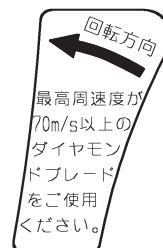


1. 部品番号:X505-008470

2. 部品番号:X505-012330

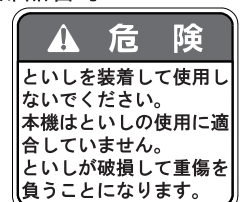
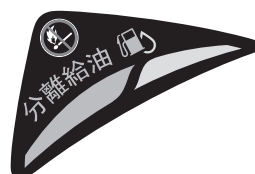
3. 部品番号:X505-003940

4. 部品番号:X505-000030



6. 部品番号:X505-010140

5. 部品番号:X524-007190



3. 作業の準備

3-1. 刃物の取り付け

⚠ 危険

○ といしを装着して使用しないでください。

といしの使用に適合していません。といしが破損して重傷を負うことになります。

⚠ 警告

○ 取扱説明書をよく読んで、正しく取り付けてください。

○ 使用する刃物の取扱説明書をよく読んで、正しく取り付けてください。

誤った取り付け方をすると刃物が外れ、重傷を負う原因となります。



⚠ 注意

○ 指定した刃物（ダイヤモンドブレード）を使用してください。（34 ページの「仕様」を参照）

キックバックが起きやすくなり、ケガを負う恐れがあります。

○ 手袋を着用して刃物を取り付けてください。

ケガや火傷を負う恐れがあります。

重要

○ 刃物の交換は、刃物ブレーキを解除して行ってください。

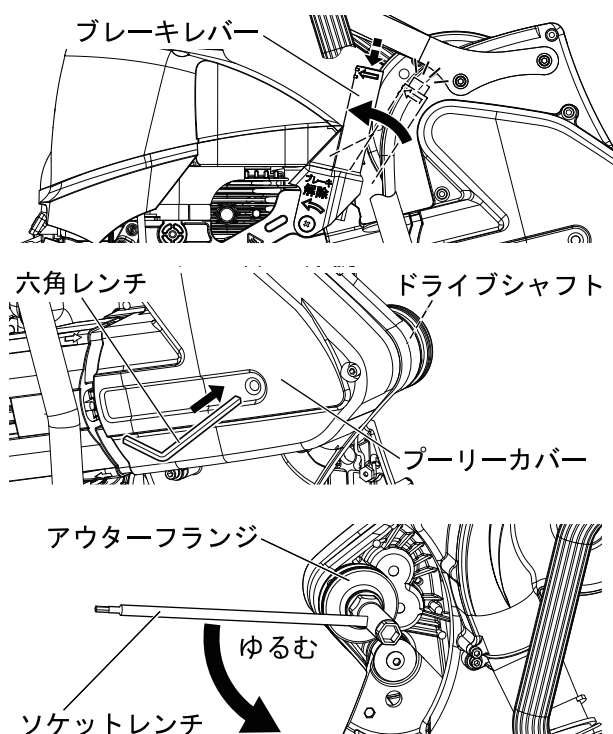
回り止めのために刃物ブレーキを使用すると、クラッチカバーやベルトの破損原因となります。

■ カラーの交換

⚠ 注意

○ 刃物に適合したカラーを使用してください。

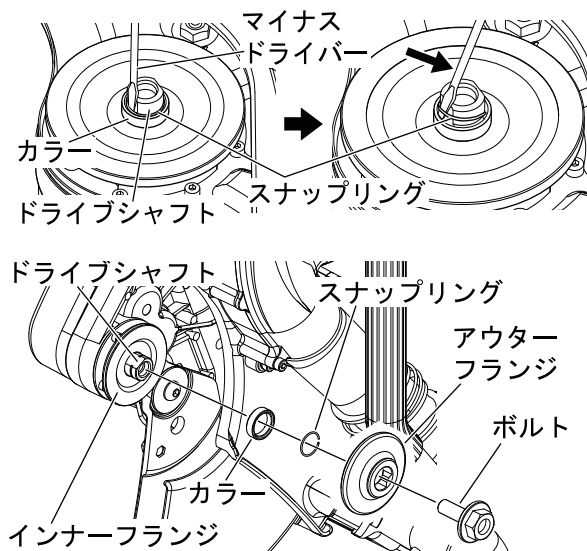
誤ったカラーを使用すると、刃物が固定されず破損する恐れがあります。



刃物の内径に適合しているカラーを取り付けてください。製品出荷時には外径 30.5 mm のカラーが取り付けられています。

1. ブレーキレバーを手前に引いて、刃物ブレーキが解除されていることを確認してください。
2. プーリーカバーの穴に付属の六角レンチを差し込み、ドライブシャフトを回らないよう固定してください。
3. 付属のソケットレンチを使って、ボルトをゆるめてアウターフランジを取り外してください。

3. 作業の準備



4. ドライブシャフトにカラーがスナップリングで固定されています。細いマイナスドライバーなどをスナップリングとドライブシャフトの間に差し込んでスナップリングを取り外してください。
5. カラーを使用する刃物の内径にあったものと差し替えてください。
6. スナップリングをドライブシャフトの溝の位置まで押し込んでカラーを固定してください。スナップリングが変形した場合はカラーが固定されず危険ですので新品に交換してください。

■ 刃物の取り付け



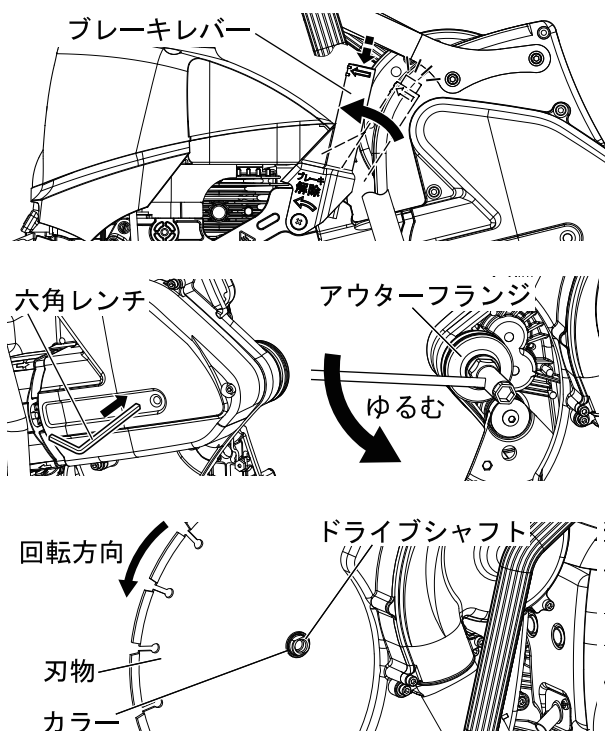
警告

- 基板割れ、基板のひずみ、チップ欠け、チップ異常摩耗のあるダイヤモンドブレードは使用しないでください。
- 刃物に表示されている最高回転速度が製品に表示されている回転速度より低いものは使用しないでください。
- 刃物は付属のソケットレンチを使って、確実に締め付けてください。

事故や重傷を負う原因となります。

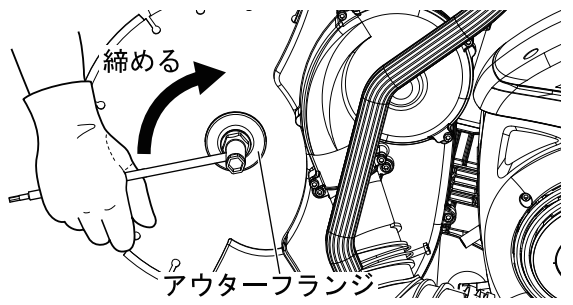
- 刃物を締め付けるときに、エア工具、電動工具などを使用したり、体重を掛けて締め付けたりしないでください。

必要以上の締め付けにより刃物固定用ボルトやドライブシャフトが破損して、事故や重傷を負う原因となります。



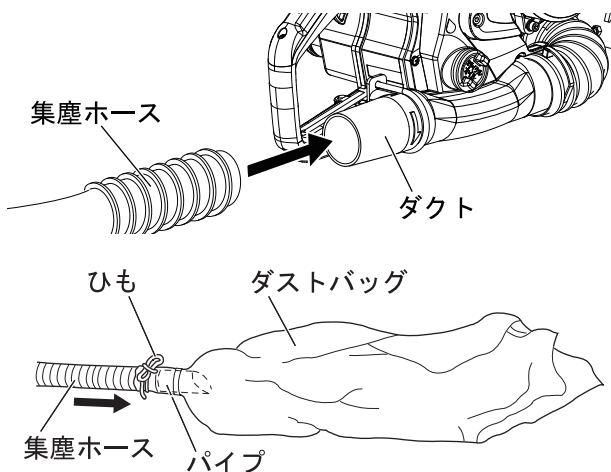
1. ブレーキレバーを手前に引いて、刃物ブレーキが解除されていることを確認してください。
2. 付属の六角レンチをブリーカバーの穴に差し込んでドライブシャフトを固定してください。
3. 付属のソケットレンチを使用してボルトをゆるめ、アウターフランジと一緒に外してください。
4. フランジやボルトにゴミが付いている場合は清掃してください。摩耗や損傷している場合は新品に交換してください。
5. 刃物の回転方向を確認して、ドライブシャフトのカラーにセットしてください。カラーに刃物の中心穴が確実にセットされていることを確認してください。

3. 作業の準備



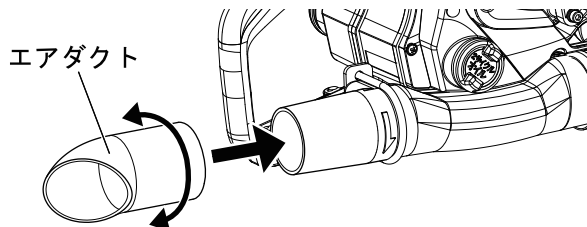
6. アウターフランジの穴をドライブシャフトに合わせて取り付け、ボルトを手で仮り締めしてから付属のソケットレンチで締め付けてください。参考：締め付けトルクは $25\text{N} \cdot \text{m} \sim 30\text{N} \cdot \text{m}$ ($250 \sim 300\text{kgf} \cdot \text{cm}$) です。
7. プーリーカバーの穴から六角レンチを外し、刃物を手で回して振れ、ゆるみがないか確認してください。

3-2. 集塵ホースとダストバッグの取り付け



1. 集塵ホースを本体のダクトに回しながら挿入してください。外すときは回しながら引き抜いてください。
2. 集塵ホースの排出側をダストバッグ内のパイプの奥まで差し込んでください。ダストバッグに付いているひもで集塵ホースをしばって固定してください。

3-3. エアダクトの使用方法



1. ダストバッグを使用しない場合は、エアダクトを取り付けてください。エアダクトで切削粉の排出方向を調整できます。
2. 集塵ホースの代わりにエアダクトを本体のダクトに取り付けてください。
3. エアダクトが人や作業者のいない方向を向くように調整してください。

3. 作業の準備

3-4. 燃料の準備

⚠ 危険

- 燃料はエンジンを停止し、エンジンが冷えてから補給してください。
- 補給中にタバコを吸ったり、火気を近づけたりしないでください。

燃料に引火して火災を起こしたり、火傷を負うことになります。



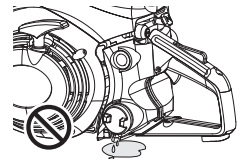
⚠ 警告

- 燃料補給前に製品および補給用タンクを地面に数分間置くなどして、帯電している静電気を逃がしてください。作業中自身も手のひらを地面や金属に押し当てて、静電気を逃がしてください。
- 燃料補給時に金属製の漏斗（ろうと）を使用しないでください。
静電気が燃料に放電して、火災の原因となります。
- 燃料は風通しの良い場所で、製品と補給用タンクを地面に置いて補給してください。トラックの荷台の上などでは補給しないでください。
- 燃料タンクには外気との間に圧力差が生じています。燃料タンクキャップはゆっくりと開けてください。
- 燃料を燃料タンク口元まで入れないでください。
- 燃料が少しでもこぼれたら必ず拭き取ってください。ただし湿度が低いときは、乾いた布で拭くと静電気を帯びやすいので、水を湿らせた布で拭き取るようにしてください。
- 燃料パイプ、燃料系グロメット、燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れやにじみがある場合は直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- 補給用タンクは火気のない日陰に置いてください。

燃料に引火して火災を起こしたり、火傷を負う原因となります。

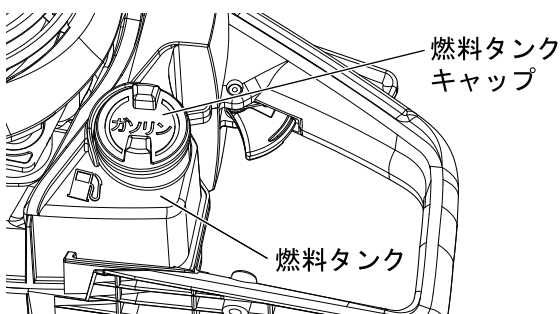
- 燃料を運搬する際は鋼板製のガソリン携行缶を使用してください。
- 余った燃料は鋼板製のガソリン携行缶で保管してください。

ポリ容器での運搬や保管は法律で禁止されており、火災の原因となります。



重要

- この製品に使用する燃料は、レギュラーガソリンです。
オイルフィルターの点検後以外は、混合ガソリンを使用しないでください。
アルコール混入ガソリンは、ゴム製部品の劣化を早めるので使用しないでください。



燃料タンクキャップを開け、手動式の燃料補給ポンプを使用してレギュラーガソリンを入れてください。補給後は、燃料タンクキャップを確実に締め付けてください。

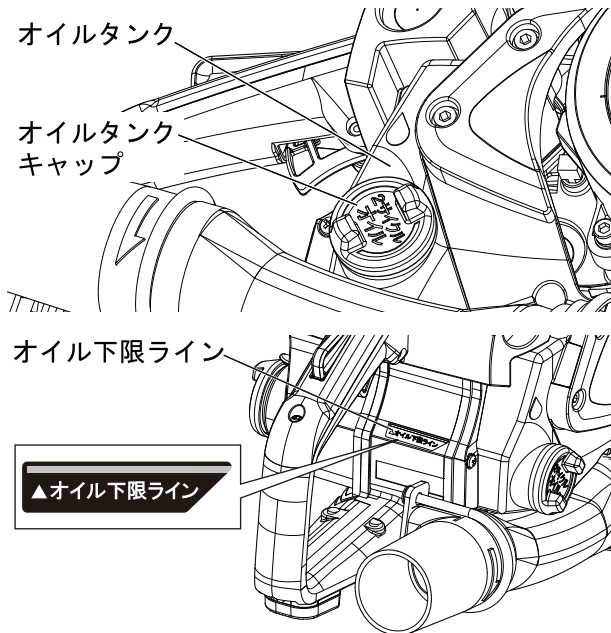
燃料タンクは、燃料の残量が見えるようにしています。

3. 作業の準備

3-5. 潤滑油の準備

重要

- **使用前に必ず「2サイクル専用オイル（50：1用、JASO 性能分類 FD）」を満タンにしてください。**
- オイルタンクに水やガソリンが混入しないよう注意ください。（焼き付きの原因となります。）



最良の性能を得るには、2サイクル専用オイル50：1用、JASO 性能分類 FD（以下「2サイクルオイル」という）をご使用ください。

2サイクルオイルはオイルタンクキャップを開け、オイルタンク満タンに補給してください。補給後はオイルタンクキャップを確実に締め付けてください。

オイルタンクは2サイクルオイルの残量が見えるようになっています。製品を平らな場所に置いたときに2サイクルオイルがオイル下限ラインより少なくならないように、残量に注意してご使用ください。

潤滑油	2サイクル専用オイル（50：1用） JASO 性能分類 FD
規格	自動車技術会（JASO） 2サイクルガソリン期間 潤滑油規格 JASO M 345

3. 作業の準備

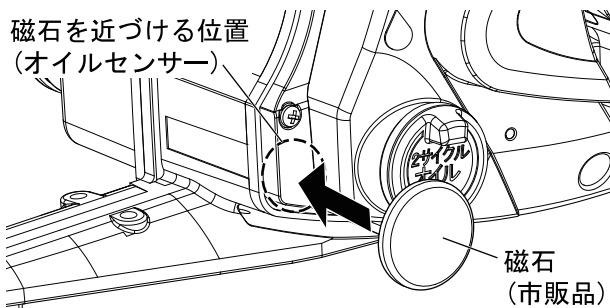
3-6. オイルセンサー

重要

- オイルセンサーはあくまで2サイクルオイル不足をお知らせする補助的な機能です。オイルタンク内の2サイクルオイル量が不足した際にエンジンを停止させ焼き付きに対するリスクを減少させるものであり、焼き付きを完全に防ぐものではありません。2サイクルオイルの残量には十分注意し、2サイクルオイルの補充をお願いします。
- オイル下限ライン付近に2サイクルオイル油面が到達している場合オイルセンサーが反応し、頻繁にエンジンが停止します。意図せずエンジンが停止した際はオイルタンクに2サイクルオイルの補充をお願いします。
- 以下の場合オイルセンサーが正常に作動しない可能性があります。
 - ・ オイルタンク内に多量の異物が混入した場合（2サイクルオイル補給時に鉄粉等の異物が混入しないよう十分注意してください）
 - ・ 「2サイクル専用オイル (50:1 用 JASO 性能分類 FD)」以外を使用した場合
 - ・ オイルセンサーの配線が断線した場合
- 炎天下での車内等、高温 (60℃以上) になる場所で保管しないでください。オイルセンサー破損の原因となります。

オイルセンサーはオイルタンク内の2サイクルオイルの油面が「オイル下限ライン」ラベル付近まで低下した際エンジンを自動停止させる機能です。

オイルタンク内に2サイクルオイルの油面に追従するマグネットフロートを設けています。マグネットフロートに鉄粉等の異物が付着した場合マグネットフロートの動きが悪くなりセンサーが正常に作動しなくなる可能性があります。



オイルセンサーの動作確認

エンジン始動後、2サイクルオイル満タン時にオイルセンサーに磁石を近づけてエンジンが停止することを確認してください。

磁石の種類と大きさの目安

種類	大きさ
フェライト磁石 (黒色)	直径 10mm 以上
ネオジム磁石 (銀色)	直径 3mm 以上
マグネットシート	使用不可

* 作業中強力な磁石がオイルセンサーに近づいた場合、エンジンが停止する可能性があります。

4. 運転

4-1. 刃物ブレーキの操作と確認

⚠ 注意

○ 刃物ブレーキをよく理解してからご使用ください。

刃物ブレーキはキックバックを防止できるものではありません。キックバックが発生した際の事故被害を最小限に抑える目的のものです。間違えた操作でお使いになると、怪我を負ったり刃物ブレーキが破損する恐れがあります。

○ 始動前に 15 ページの「刃物ブレーキの操作方法」をよくお読みください。

刃物ブレーキの作動や解除を行う際には力を要する場合があります。
刃物ブレーキは解除状態で出荷されますが、お手元に届く間に衝撃などの力がかかり、ブレーキが作動状態となる場合があります。

○ ガソリンの近くやガソリンの臭気がある場所で、刃物ブレーキの確認を絶対にしないでください。

刃物ブレーキの過熱による引火の恐れがあります。

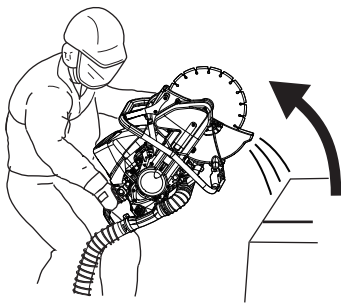
重要

○ 刃物ブレーキは必要のないときに使用しないでください。

○ 刃物ブレーキが掛かっている間は、エンジンの回転を上げないでください。

○ クラッチカバーやブレーキレバーにダストやノロが詰まると、刃物ブレーキの作動が悪くなる場合があります。いつもきれいに清掃してください。

■ 刃物ブレーキの機能



このエンジンカッターには刃物ブレーキが搭載されています。

刃物ブレーキは、一定以上の強いキックバックが生じるとブレーキレバーが前に倒れることで作動します。

刃物ブレーキが掛かると刃物は瞬時に停止します。

刃物ブレーキはブレーキレバーを手前に引くことで解除されます。

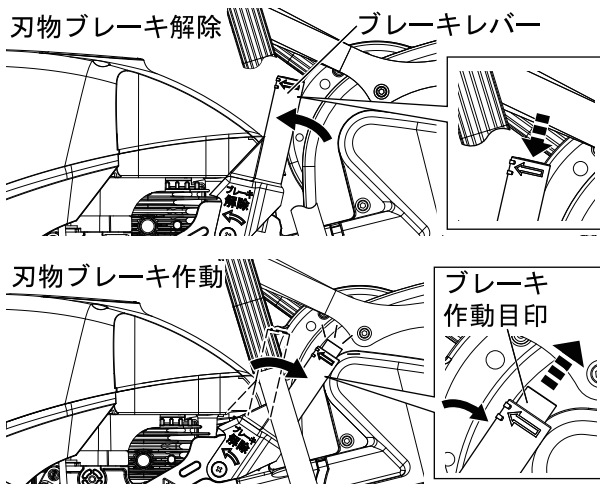
刃物ブレーキの機能は、キックバック発生時に（回転する）刃物を停止させ負傷のリスクを低減させることであり、キックバックを防ぐものではありません。刃物ブレーキがあっても、キックバックが起こらないように注意してエンジンカッターを操作してください。（20 ページ参照）

通常の使用および整備が適切であっても、刃物ブレーキの性能を維持するために次の内容に注意してください。

- ◆ 指定の刃物（34 ページの「仕様」を参照）を使用すること。
- ◆ ドライブベルトのテンションは指定の位置まで張ること。（28 ページ参照）
- ◆ 刃物は指定トルク（25 ～ 30N・m）で締め付けること。
- ◆ クラッチドラム交換時はドラムの外周を脱脂して組み込むこと。

4. 運転

■ 刃物ブレーキの操作方法



1. ブレーキレバーを手前に引いたとき、刃物ブレーキは解除状態となり、刃物は手で回転可能な状態となります。
2. ブレーキレバーを前方に倒したとき、
 - ◆ 刃物ブレーキは作動し、刃物は手で回せなくなります。
 - ◆ ブレーキレバーの先端部から蛍光ラベルが飛出しブレーキが作動している目印となります。

■ 刃物ブレーキの確認

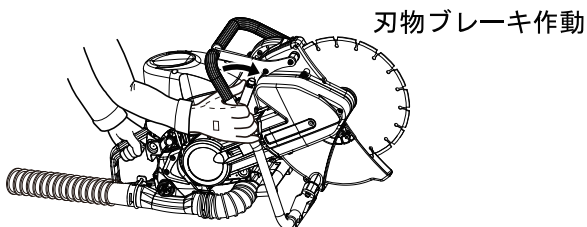
⚠ 注意

○ 作業前に刃物ブレーキが正しく作動することを確認してください。

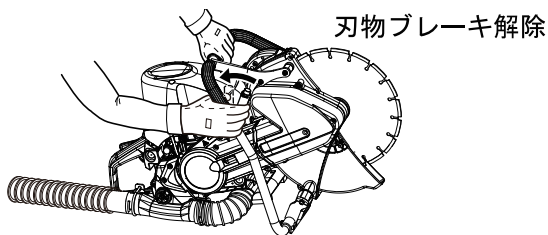
キックバックにより、ケガを負う恐れがあります。

○ ブレーキレバーを手動操作するとき、ブレーキレバーとプーリーカバーの間に指を挟まれないように注意してください。

ケガを負う恐れがあります。



1. 平坦な場所に機械を設置し、エンジンを始動させ、エンジンの回転を高速にしてください。
2. リヤハンドルを持ったままブレーキレバーを前方に押して、刃物ブレーキを作動させてください。
3. 刃物が瞬時に停止することを確認してください。
4. すぐにスロットルトリガから指を離してください。



重要

○ 刃物ブレーキを作動させたままエンジン回転が高い状態を続けると摩擦熱により破損する恐れがあります。

5. ブレーキレバーを手前に引いて刃物ブレーキを解除してください。

* 刃物が瞬時に停止しない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

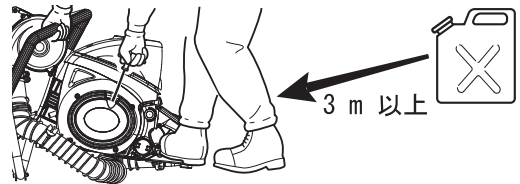
4. 運転

4-2. エンジンの始動

警告

- 燃料を補給した場所でエンジンを始動しないでください。
エンジンを始動する前に、燃料を補給した場所から 3 m 以上移動してください。

燃料補給時の漏れた燃料に引火し、火災の原因となります。



- エンジンを始動するときは、特に次のことを守ってください。

- ◆ 製品を平坦で通気の良い、可燃物のない場所に置く
- ◆ 燃料が漏れていないか確認する
- ◆ 各部を点検し、製品の損傷やボルト・ナット類にゆるみがないことを確認する
- ◆ 周囲は広くとり、人や動物を近づけない
- ◆ 刃物が地面や障害物と接触していないことを確認する
- ◆ 製品をしっかりと押さえて始動する
- ◆ 刃物がない状態で始動しない

火災、事故や重傷を負う原因となります。

- エンジンの排気ガスには有毒なガスが含まれています。屋内など通気の悪い場所では製品を運転しないでください。

排気ガスによる中毒事故の原因となります。



- エンジンが始動したら、異常振動・異常音が発生していないかを確認してください。
異常がある場合は直ちにエンジンを停止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

部品の脱落、飛散などにより、重傷を負う原因となります。

- スロットルトリガがアイドリングの位置にあっても刃物が動く場合は、キャブレタを調整してください。
(28 ページ参照)

刃物に接触し、重傷を負う原因となります。

- 製品の運転中および停止後しばらくの間は、シリンダ、シリンダカバー、クラッチカバー、マフラ、刃物などの高温部に触れないでください。

高温部に触れると火傷します。



- 製品の運転中、スパークプラグ、プラグコードなどの高電圧部に触れないでください。

運転中に高電圧部に触れると感電します。



- 製品の運転中、刃物が回っているあいだは刃物に触れないでください。

重傷を負う原因となります。

注意

- ハンドルにオイルや燃料が付着したときは、拭き取って清潔な乾燥状態を保ってください。

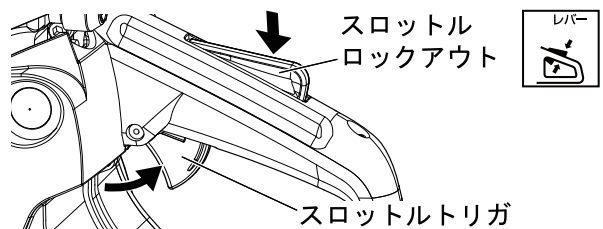
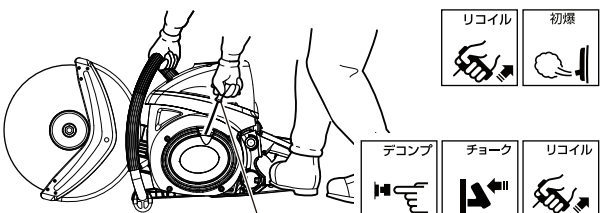
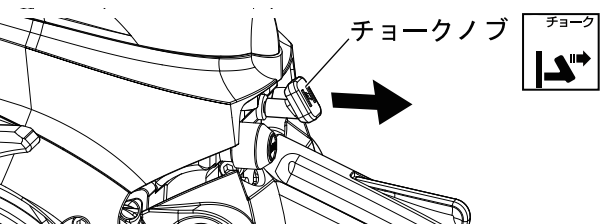
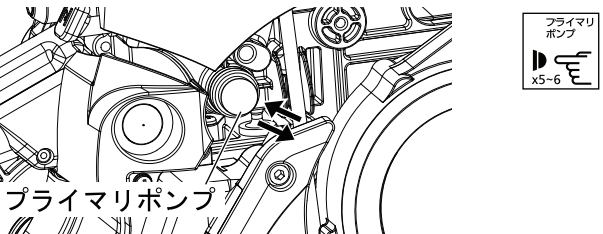
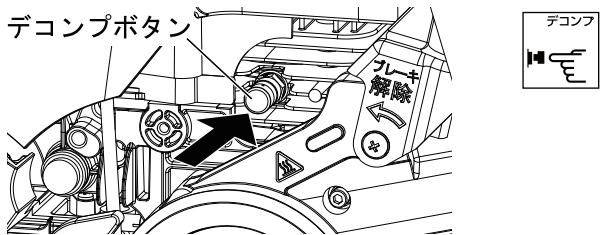
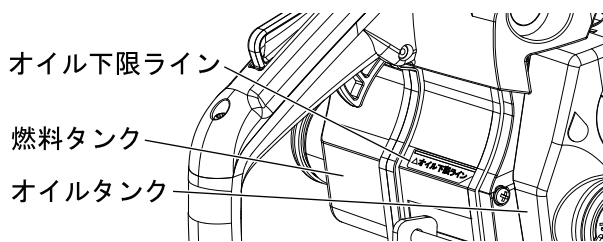
手が滑りケガを負う恐れがあります。

重要

- スタータグリップを引くときは、引きヒモの 2/3 以上は引き出さないでください。スタータグリップを戻すときは、途中で手を離さないでください。

4. 運転

■冷えたエンジンの始動



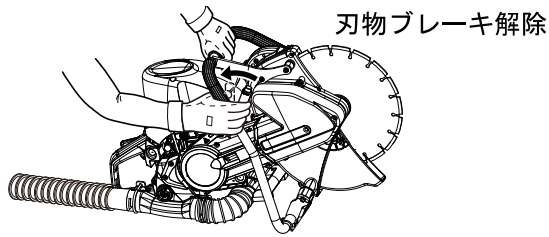
長期保管後に使用するとき、スパークプラグキャップを接続してエアクリーナカバーを取り付けてください。

1. ガソリンと2サイクルオイルがそれぞれのタンクに入っていることを確認してください。
* 運転中に2サイクルオイルがオイル下限ラインより少なくなならないように、**2サイクルオイルを満タンにしてから運転してください。**
2. デコンプボタンを押してください。
* デコンプボタンを押すことによりシリンダ圧力の一部を抜き、始動を容易にします。
* デコンプボタンはエンジンが始動すると自動で解除されます。
3. プライマリポンプ内に燃料が吸い上がるまで、プライマリポンプをくり返し押してください。(目安5～6回)
4. チョークノブを引いてください。
* チョークノブを引くとラッチ状態(スロットルが少し開いてアイドリング時の回転数が高くなる状態)になります。
5. エンジンカッターを安定した地面におき、右足でリヤハンドルをしっかりと固定します。左手でフロントハンドルをつかみ、右手でスタータグリップを最初の爆発音がするまで数回引いてください。
6. 爆発音がしたら、再度デコンプボタンを押してからチョークノブを元に戻し、スタータグリップを引いてエンジンを始動してください。
* チョークノブを戻さないままスタータグリップを引き続けると、燃料を吸い込みすぎてエンジンが始動しにくくなります。
7. 始動後は、すぐにスロットルロックアウトを押しながらスロットルトリガを少しだけ引いて、ラッチ状態を解除してください。
* スロットルトリガは、スロットルロックアウトを押さないと引けないようになっています。

重要

- 刃物ブレーキを作動させたままラッチ状態(スロットルが少し開いてアイドリング時の回転数が高くなる状態)を維持するとクラッチ周辺が摩擦熱により破損する恐れがあるため、刃物ブレーキを解除して始動してください。

4. 運転



刃物ブレーキ解除

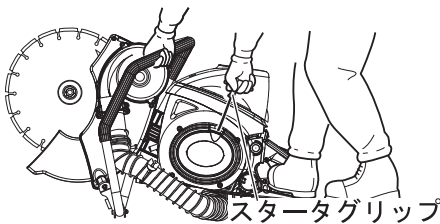
8. 運転前に必ずブレーキが解除されていることを確認してください。(ブレーキレバーを手前に引いて、刃物ブレーキを解除してください)

重要

○ 刃物ブレーキが完全に解除にならないまま、エンジン回転を上げますと、クラッチ周辺が摩擦熱により破損する恐れがあります。

* 刃物ブレーキを解除しないとブレーキが掛かったままなので、刃物は回りません。

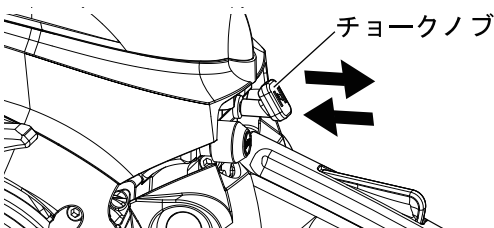
■暖まっているエンジンの始動



スタータグリップ



1. 17 ページの「冷えたエンジンの始動」の手順 1,2 を実行してください。
2. チョークを使用せずスタータグリップを引いてください。



チョークノブ

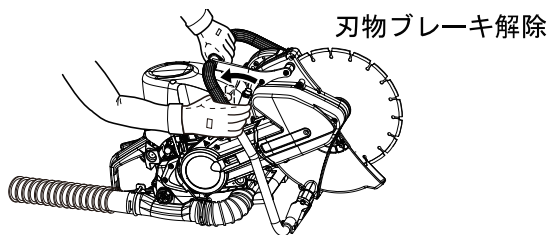


* エンジンが始動しにくい場合は、チョークノブを一旦引き出しラッチ状態にして、また元に戻してください。(スロットルが少し開いてアイドリング時の回転数が高くなる状態になります)
始動後は、スロットルロックアウトを押しながらスロットルトリガを少しだけ引いてラッチ状態を解除してください。
それでも始動しない場合は「冷えたエンジンの始動」の手順で始動操作をしてください。

重要

○ チョークノブを戻しただけではエンジン回転数が高くなる状態（ラッチ状態）は解除されておらず、そのままの状態を維持しますとクラッチ周辺が摩擦熱により破損する恐れがあります。

3. 運転前に必ず刃物ブレーキが解除されていることを確認してください。(ブレーキレバーを手前に引いて、刃物ブレーキを解除してください)



刃物ブレーキ解除

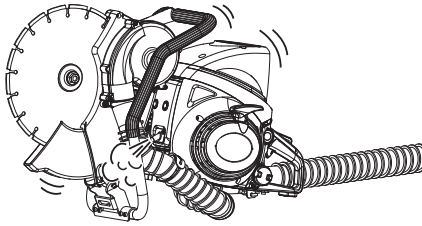
重要

○ ブレーキが完全に解除にならないまま、エンジン回転を上げますと、クラッチ周辺が摩擦熱により破損する恐れがあります。

* 刃物ブレーキを解除しないとブレーキが掛かったままなので、刃物は回りません。

4. 運転

■エンジンの暖機運転



1. 始動したら、2～3分間低速運転をしてください。
2. スロットルトリガを徐々に引いてエンジンの回転を上げていくと、自動的に刃物が回転し始めます。スロットルトリガを戻すと、刃物の回転が停止し、エンジンはアイドリング状態になります。

4-3. エンジンの停止

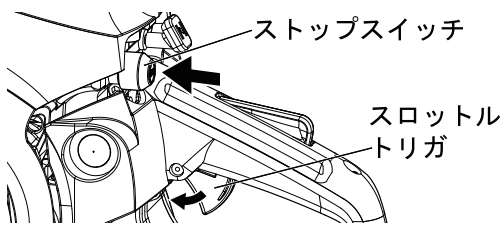


○エンジン停止後もマフラや刃物が熱いので、可燃物のない場所に置いてください。

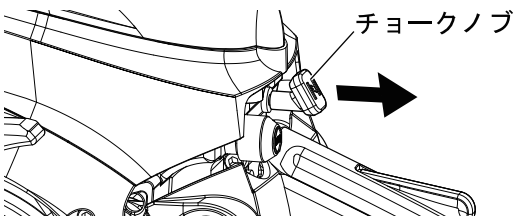
火災の原因となります。

○エンジン停止後も刃物が回っているあいだは刃物に触れないでください。

重傷を負う原因となります。



1. スロットルトリガを戻し、2～3分間アイドリング運転をしてください。
2. ストップスイッチを押してください。本製品には停止持続ユニットが付いていますので、ストップスイッチを押し続けなくてもエンジンは停止します。



* ストップスイッチを押してもエンジンが停止しないときは、チョークノブを引いてください。エンジンは失速し停止します。(応急停止：チョークストップ)
ストップスイッチでエンジンが停止しなかった場合は、製品を再び使用する前に、お買い求めの販売店にストップスイッチの点検と修理を依頼してください。

5. 切断作業

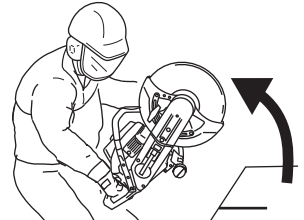
⚠ 危険

キックバックに注意

- 切断中に刃物から切断材へ反発力が発生して刃物がはねあがるなど、本機がコントロールできなくなり回転する刃物に接触して致命傷や重傷を負う原因になることがあります。

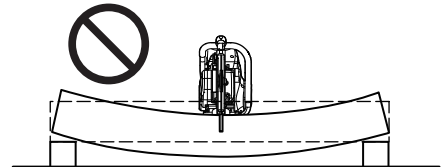
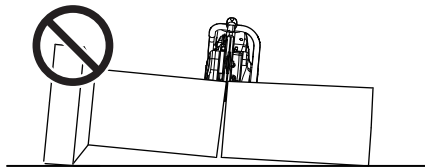
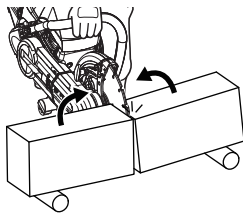
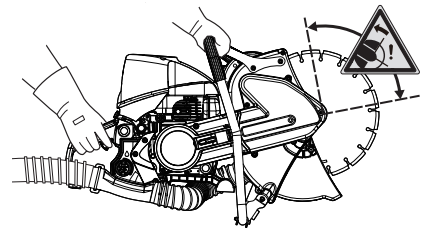


- このエンジンカッターには刃物ブレーキが搭載されています。刃物ブレーキの機能は、キックバック発生時に（回転する）刃物を停止させ負傷のリスクを低減させることであり、キックバックを防ぐものではありません。以下のことに注意してキックバックが起らないようにエンジンカッターを操作してください。

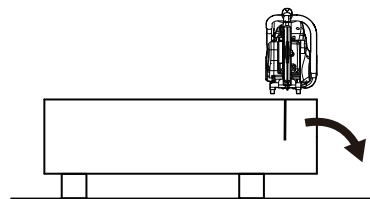
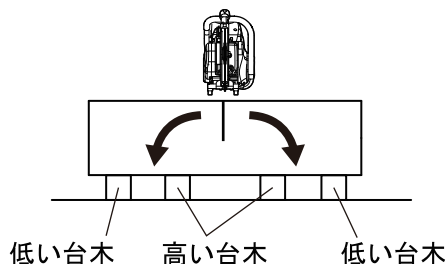


キックバックの発生

- 刃物の上半分（キックバックゾーン）で切断しないでください。キックバックゾーンで切断作業を行うと切断材へ反発力が発生して刃物が回転の反動ではねあがり大変危険です。必ず刃物の下側で切断してください。
- 切断中に刃物が切断材に挟まれた場合は特に大きな反発力が発生して本機が作業者に向かってはねあがり、致命傷や重症を負う恐れがあります。
- 切断部が刃物を挟む方向に切断しないでください。刃物が挟まれる方向に切断した場合キックバックが発生することがあり大変危険です。



- 切断材を切り落とす場合は、切断中に切り口が閉じないように台木等を設置してください。

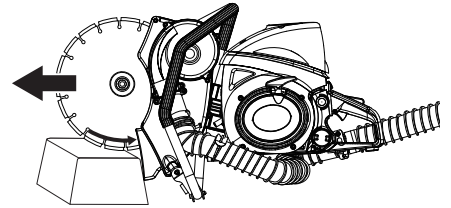


- 既存の切断部（溝）に刃物を入れるときは、既存の溝と刃物の傾きによる抵抗によりキックバックが発生しやすいため注意してください。
- 切断中は切断材が動かないよう固定してください。
- パイプなど回転しやすい切断物もしっかり固定して、切断中に動いたり回ったりしないようにしてください。
- 刃物に顔を近づけて作業しないでください。キックバックにより刃物と接触する恐れがあり大変危険です。
- 以下の条件でキックバックゾーンに切断材が触れるとキックバックが発生しやすくなりますので注意してください。
 - ◆ 高回転で運転中の場合
 - ◆ 既存の切断溝に刃物を入れる場合
 - ◆ 切断中に切断方向を無理に曲げた場合
 - ◆ 切れない刃物を使用した場合
 - ◆ 切断材に強く刃物を押し付けた場合
 - ◆ ハンドルをしっかりと保持していない場合
 - ◆ 鉄筋コンクリートなど硬さが異なるもので構成されている切断材を切断する場合（切断中に固いものに当たると大きな反発力が発生する場合があります）

5. 切断作業

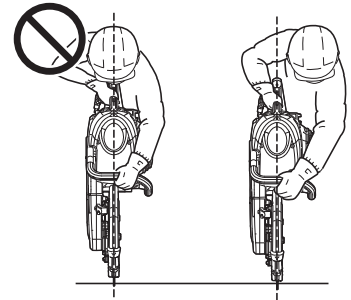
⚠ 危険

- 刃物の下側で切断作業する場合も本機は前側に引き込まれる力が発生しますので、作業中はハンドルをしっかり持って作業してください。



キックバックを起こさないために

- 慎重に作業してキックバックが発生しやすい状況を避けてください。
- 作業中はハンドルを両手でしっかり持って作業してください。
- 足場が不安定な場所や無理な体勢で作業を行わないでください。
- 切れにくくなった刃物は、切断物に引っ掛かりキックバックが起こりやすくなりますので目立てを行ってください。
- キックバックが発生すると、本機は後ろにはねあがりますので、刃物の真後ろに立って作業しないでください。



⚠ 警告

第三者の立ち入り禁止

- 作業中に他の人や動物などを作業領域内へ入れないでください。
飛散物やキックバックなどにより、重傷を負う原因となります。



無理な姿勢での作業禁止

- 足元をしっかりさせバランスを保ち、安定した姿勢で作業をしてください。
- はしごや足場に乗って作業はしないでください。
- 本機は胸より下の位置で使用してください。本機が肩より高くなるような姿勢で作業しないでください。
転倒や誤った操作などにより、事故や重傷を負う原因となります。

片手使用禁止

- 両手でハンドルを握って製品を操作してください。
- ハンドル以外の場所を持って作業しないでください。
- 作業中にホイールガードの内側に手を差し込まないでください。

片手で操作すると製品をコントロールできず、刃物に接触し、重傷を負う原因となります。

片手使用禁止



近接作業の禁止

- 作業の際は他の作業者に切断物を支えさせないでください。
- 他の作業者との間に十分な距離を保ってください。
- 二人以上で作業する場合は、お互いに呼子などで合図のしかたを決めて作業してください。

飛散物により、重傷を負う原因となります。

可燃物の注意

- 燃える恐れのあるものの近くでは使用しないでください。
- 切断後まわりに火種がないか確認してください。

使用中に発生した火花により、引火または爆発の恐れがあります。

- マフラ周辺にゴミや可燃物が付着したときは、エンジンを停止し、刃物の回転が止まってから取り除いてください。

火災の原因となります。



5. 切断作業



警告

切断材の確認

- アスベストなど有害な物質を含んだ材料は切断しないでください。
- 材質のわからないものは切断しないでください。
- 切断材にあった防塵マスクを使用してください。

放出された有害な物質を吸いこんだり、周囲に流出する恐れがあります。

作業時の注意

- 切断時に曲線切りや刃物をこじったりしないでください。
- 刃物の側面は使用しないでください。
刃物が破損して、重傷を負う原因となります。
- 製品を落したり、ぶつかったりした場合はすぐにエンジンを止めて損傷を確認してください。
製品が破損して、重傷を負う原因となります。
- 下向きで切断する場合、切断終わり時にはしっかりと製品を保持してください。
製品を支える力が無くなることでバランスを崩し、刃物に接触して重傷を負う原因になります。

作業中断時はエンジン停止

- 作業を中断し製品を下に置く前に、エンジンを停止してください。
スロットルトリガ部に木の枝などが進入し、エンジン回転が上昇することがあります。
- 作業を中断し製品を下に置く場合は、可燃物のない場所に置いてください。
火災の原因となります。
- 製品の運転中および停止後しばらくの間は、シリンダ、シリンダカバー、クラッチカバー、マフラ、刃物などの高温部に触れないでください。
やけどを負う恐れがあります。



移動時はエンジン停止

- 作業を中断して移動する場合は、エンジンを停止してください。フロントハンドルを持って刃物を後ろ向きにして移動してください。
火傷や重傷を負う原因となります。
- 車で運搬する場合は燃料タンクから燃料を抜いて、刃物は取り外し、製品が動かないようにしっかり固定してください。
- 車で運搬する場合は冷えた状態にしてから正立で積み込んでください。
燃料を入れたまま車で移動すると、火災の原因となります。



注意

作業前の確認

- 作業地域の規則を確認し、取り決めにしたがってください。
- 可燃性ガスなどの可燃物が周囲にある作業環境では使用しないでください。また、燃料ガスが充満している密閉された空間では使用しないでください。
引火し火災の原因になる恐れがあります。

切断時の注意

- 切断材は適切な方法で固定してください。
- 切断材を足で押さえて作業しないでください。
- 複数の切断材を同時に切断しないでください。
切断中にバランスがくずれて、ケガを負う可能性があります。

5. 切断作業

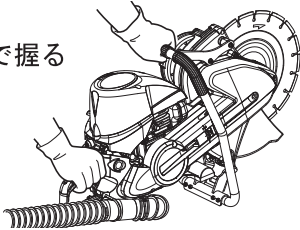
重要

○ 横置き禁止：車で運搬する場合、横置きで載せないでください。

ブリーザーバルブからオイルが漏れて汚れる恐れがあります。

■ 作業姿勢

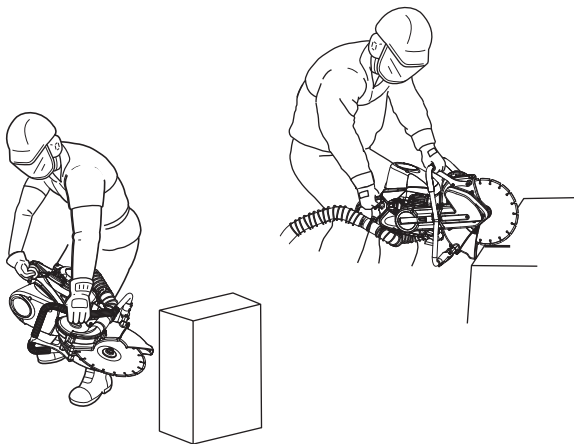
両手で握る



エンジンカッターは一人で操作するものですが、助けが必要な場合に備え、呼べる程度の近い場所に他の作業者がいるようにしてください。

エンジンカッターの左側に立って、左手はフロントハンドル、右手はリヤハンドルを握り、右手の人差し指でスロットルトリガを引いてください。

■ 切断作業



エンジンを始動し、機械の振動や刃物の面振れなど異常のないことを確認してから、切断を開始してください。

スロットル全開で刃物をゆっくり切断材に押し当てて切りこんでください。

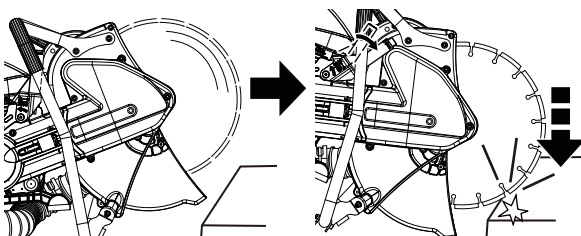
スロットル全開でエンジンの回転数は8000～9000 r/minの範囲になるように刃物を軽く切断材に押し当てて切断するのが最も効率のよい使い方です。刃物を切断材に強く押し当ててエンジン回転数を下げて使用するのは使用者の疲労を増し、切断性が著しく低下します。

ロアガードを切断材に当てるように切断してください。切断材とロアガードが離れると切断粉が漏れ、集塵性能が低下します。

横切りはリコイルスターターが上になる状態でおこなってください。エンジンカッターを置く際は、正立で置いてください。

湿式（水などの液剤）での使用は、故障の原因となりますのでしないでください。

刃物への強い衝撃



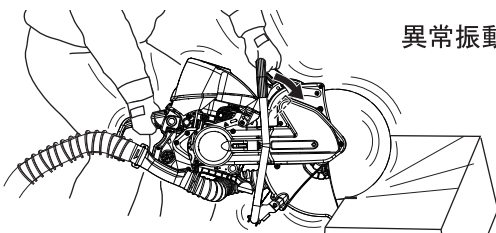
* 実際に切断する前にエンジンカッターの操作をよく理解してください。

以下の場合意図しないタイミングで刃物ブレーキが作動する可能性があります。

刃物ブレーキが作動した場合は、エンジンを停止してから刃物ブレーキを解除して再使用してください。

- ◆ 切断中刃物やフランジに強い衝撃をあたえた場合
- ◆ 切断中刃物による振動が発生した場合
- ◆ 切断中異常な機械振動が発生した場合

異常振動発生時



上記のような使い方以外で頻繁に刃物ブレーキが作動する場合はお買い求めの販売店に修理を依頼してください。

作業中急にエンジン停止や始動できなくなった場合は、オイルセンサーが作動している可能性があるため「2サイクル専用オイル」を満タンまで給油して下さい。

5. 切断作業

■ダストバッグ使用時の注意点



注意

- ダストバッグを清掃する際には保護めがねと防塵マスクを着用してください。
- ダストバッグを清掃する際に切削粉が周囲に飛散しないよう注意してください。

切削粉を吸い込んだり、目に入る恐れがあります。

ダストバッグへの切削粉のため過ぎや、ダストバッグの水ぬれは避けてください。
ダストバッグは最低でも 1 日 1 回は中の切削粉を除去してください。ぬれた場合は、よく乾燥させてから使用してください。

6. 点検・整備

6-1. 点検・整備の目安



警告

○ 製品の点検・整備をするときは、エンジンを停止し、エンジンが冷えてからスパークプラグキャップを外してください。

火傷や、突然の始動による事故の原因となります。

○ 製品の点検・整備をするときは、風通しのよい火気のない場所でおこなってください。

燃料に引火して火災や火傷の原因となります。

重要

○ お買い求めいただいた製品を安全にご使用いただくために、定期的に点検・整備をしてください。

○ 点検・整備には専門的な知識が必要です。ご自分で点検・整備や故障対策ができない場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

点検・整備項目	作業前または 作業後	作業 5 0 時間毎 または 1 年	作業 100 時間毎	参照 ページ
エアフィルタ	※ ●	●		26
燃料フィルタ		○ ●		26
燃料タンクキャップガスケット	○		●	26
燃料の残量、劣化	○			-
燃料タンクの清掃			○	26
オイルフィルタ		○ ●		27
オイルタンクキャップガスケット	○		●	26
オイルの残量、劣化	○			-
オイルセンサー	○	●		13
スパークプラグ			○ ●	27
キャブレタ			○ ●	28
シリンダフィン	○			27
マフラ	○			-
クラッチ			●	-
刃物ブレーキ	○	●		15
エンジンの異常振動	○			-
刃物 (ダイヤモンドブレード)	○			30
ベルト	○		●	28
フランジ	○		●	30
ギヤ部の注油		○		31
ダストバッグ	○			31
スクリュ、ボルト、ナット	○		●	-
防振ゴム、防振スプリング	(注) ○		●	-

○ : ご自分で点検・整備してください。

● : 製品の性能維持のため、お買い求めの販売店に定期的な点検を依頼し必要に応じ交換してください。

※ : エンジン出力が著しく低下した場合。

(注) 振動障害を予防するために

・ 防振ゴムや防振スプリングは、製品のご使用前後に摩耗、亀裂、変形がないか点検してください。

異常がある場合または通常より振動が増えたと感じた場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

・ 刃物の状態により振動が増えることがあります。

「刃物の点検」の項を参照して整備をしてください。

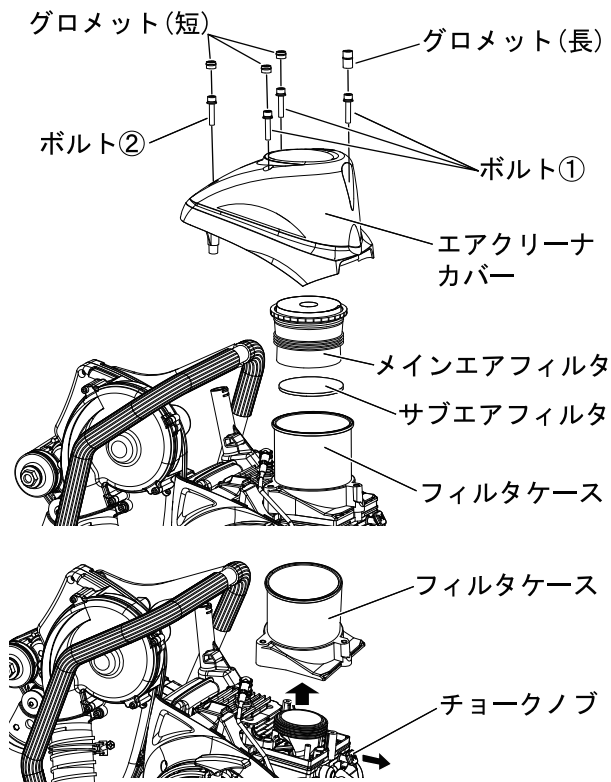
6. 点検・整備

6-2. 点検・整備要領

■エアフィルタの点検・交換

重要

○メインエアフィルタとサブエアフィルタは圧縮空気で清掃しないでください。フィルタが破損し、性能を維持できなくなります。



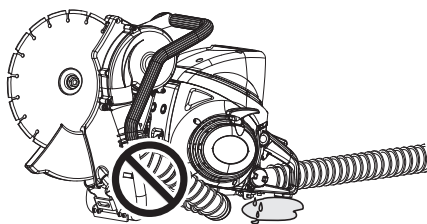
本製品のエアフィルタは遠心分離を含む4層のクリーナ構造になっており長期間メンテナンス不要でご使用いただけますが、次の場合はメインエアフィルタとサブエアフィルタを新品と交換してください。

- ◆ エンジン出力が著しく低下した場合。
- ◆ 1年間もしくは50時間の作業目安。

エアフィルタの交換手順

1. エアクリーナカバーに取り付けてあるグロメット4個をラジオペンチなどを使って取り外してください。
2. エアクリーナカバーを固定しているボルト4本を外してエアクリーナカバーを取り外してください。
3. メインエアフィルタとサブエアフィルタを取り外してください。サブエアフィルタはチョークノブを引いたあとにフィルタケースを引き抜いて裏から押せば外すことができます。
4. フィルタケースを取り付けてください。
5. 新しいサブエアフィルタとメインエアフィルタを取り付けてください。フィルタは同時に交換してください。
6. エアクリーナカバーを取り付けてからボルト4本を締め付けて固定してください。ボルト①3本を締め付けてからボルト②を締め付けてください。
7. グロメットを上下の向きに注意してエアクリーナカバーに取り付けてください。

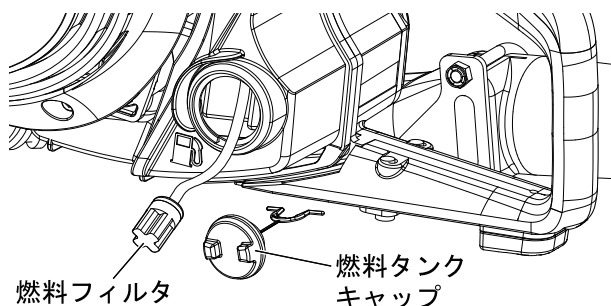
■燃料・オイルタンクキャップガasketの点検



燃料やオイルを補給した後、それぞれのタンクキャップを確実に締め付け、タンクキャップ周辺から燃料、オイルの漏れ、にじみがないことを確認してください。

- * 漏れ、にじみがある場合は直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

■燃料フィルタの点検



燃料フィルタの詰まりは、エンジン始動の困難・エンジン不調の原因になります。

1. 燃料タンクキャップを外してください。
2. 針金などを使って給油口から燃料フィルタを引き出し、点検してください。
3. 燃料フィルタが汚れている場合または年に一度、クリーニングせずに新しい燃料フィルタに交換してください。
4. 燃料タンクの内側が汚れていたら、燃料できれいにしてください。
5. 点検後は燃料タンクキャップを確実に締め付けてください。

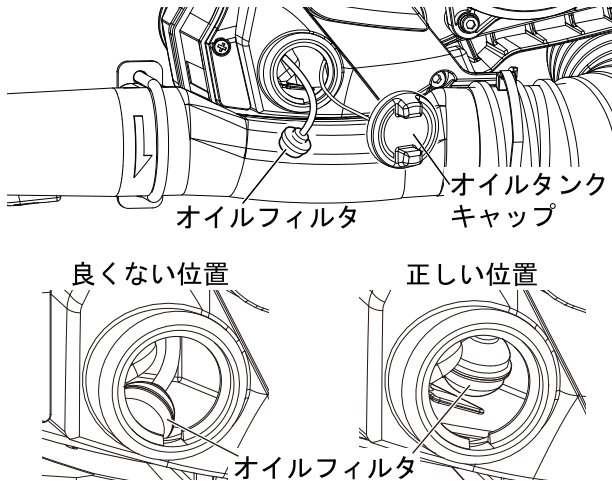
- * 燃料タンク内にゴミが入らないようにしてください。

6. 点検・整備

■ オイルフィルタの点検

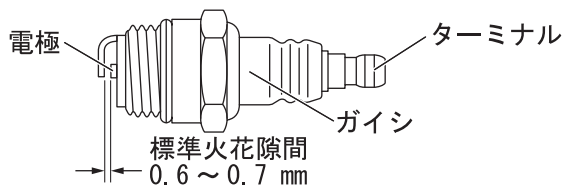
重要

- オイルフィルタが詰まるとエンジンの焼き付きにつながりますので注意してください。
- オイルフィルタ清掃後、混合燃料（50 : 1）を燃料タンクに入れて 1 タンク運転して下さい。
（燃料タンクに 2 サイクルオイルを約 13mL 入れガソリンを満タンにすると混合比 50 : 1 になります。）



1. オイルタンクキャップを外してください。
 2. 針金などを使って、オイルパイプに傷を付けないようにオイルフィルタをオイルタンクの給油口から取り出してください。
 3. オイルフィルタが汚れている場合は、清掃または交換してください。
 4. オイルフィルタはオイルタンクの一番奥に押し込んでください。
 5. 点検後はオイルタンクキャップを確実に締め付けてください。
- * オイルタンク内にゴミが入らないようにしてください。

■ スパークプラグの点検

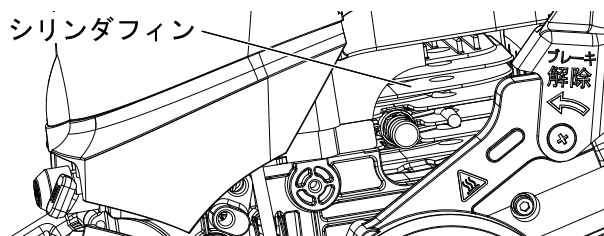


シリンダのプラグ孔付近や、燃料がこぼれたり燃えやすいガスがある場所での発火テストは禁止

1. 付属のソケットレンチ（19 mm）でスパークプラグを外してください。
2. スパークプラグの標準火花隙間は 0.6 ~ 0.7 mm です。標準火花隙間より広すぎたり狭すぎる場合は調整してください。電極の周囲にオイルや堆積物が付いているときは清掃してください。電極やターミナルが摩耗しているときや、ガイシに亀裂がある場合は新品と交換してください。
3. スパークプラグは、付属のソケットレンチでしっかり締め付けてください。
参考：締め付けトルクは 17 ~ 19 N・m（170 ~ 190 kgf・cm）です。

* スパークプラグの火花を確認する発火テストは、お買い求めの販売店に依頼してください。

■ シリンダフィン



シリンダフィンにゴミが詰まるとエンジンの冷却効果が悪くなります。シリンダフィンの間のゴミやホコリを取り除いて冷却風の通りを良くしてください。

6. 点検・整備

■キャブレタの点検



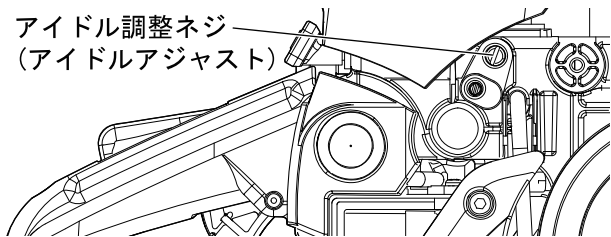
警告

- キャブレタを調整するときには人を近づけないこと。
- キャブレタを調整するときには刃物が地面や障害物に接触していないこと。

刃物が動き出した際に重傷を負う原因となります。

重要

- 調整ネジは締めすぎないでください。キャブレタが破損する原因となります。



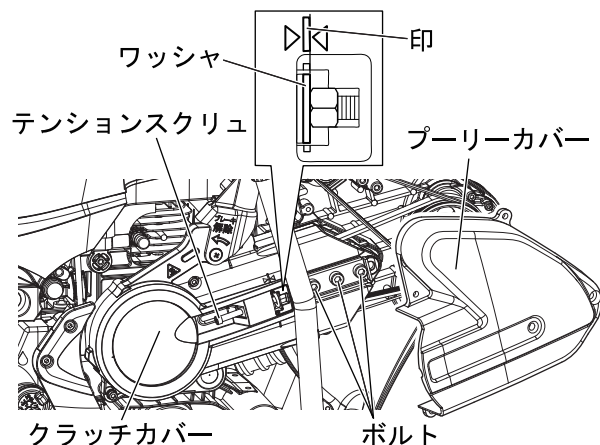
アイドルリング時に刃物が回転しないよう、キャブレタを次のように調整してください。

1. アイドル調整ネジを刃物が回り始めるまで、もしくはいっぱいまで右に回し、その後左に2・1/2回転戻してください。参考：エンジン回転数は2,600±400 r/minです。右に回すと回転速度が上がります。

* エンジン破損の原因になる恐れがありますので、アイドルリング調整以外のキャブレタ調整はしないでください。エンジン不調の場合は販売店にご相談ください。

■ベルトの点検・調整・交換

ベルトは使用している間に張りがゆるんだり、摩耗します。ベルトに異常があると切断能力や集塵能力が低下します。



メインベルトの調整

ゆるんだ場合は張りの調整をしてください。

1. プーリーカバーのボルト4本をゆるめ、プーリーカバーを外してください。
2. カッターアームを固定しているボルト3本を付属の六角レンチで約1回転ゆるめてください。
3. テンションスクリュを回して、クラッチカバーの印にワッシャを合わせてください。
4. ボルト3本を締め付けてください。参考：締め付けトルクは20N・m～23N・m(200～230kgf・cm)です。
5. プーリーカバーを取り付けて、ボルト4本で固定してください。

ファンベルトの調整

張りの調整は不要です。

ご使用中、集塵能力の低下を感じましたらファンベルトを交換してください。

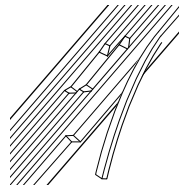
ベルトの交換



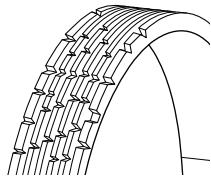
注意

- ベルトの交換時には、ベルトとプーリーの間に指を挟まれないように注意してください。けがをする恐れがあります。

6. 点検・整備



はがれ、めくれ

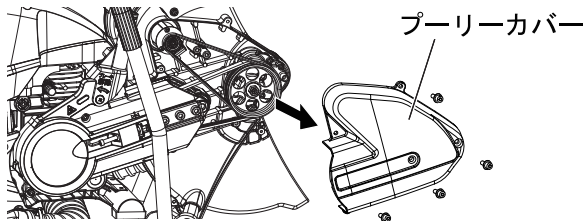


傷、ひび割れ

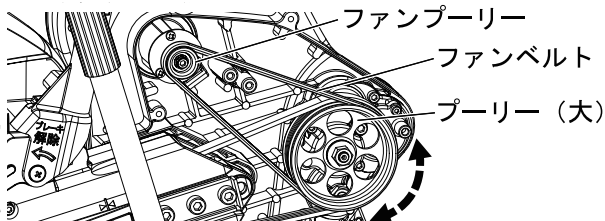
摩耗が激しい場合（はがれ、めくれ、傷、ひび割れなど）はベルトを交換してください。

ベルトの寿命はメインベルト、ファンベルトとも同じくらいに設定してあります。

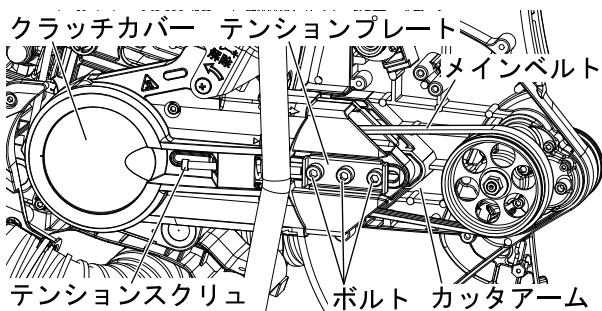
ベルトを交換するときは、できるだけ2本同時に行ってください。



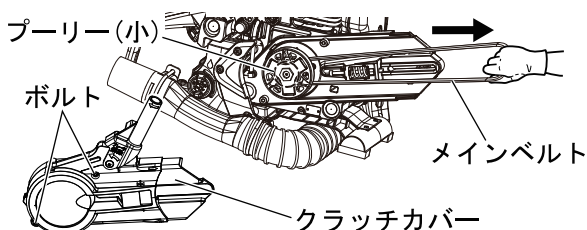
1. ブレーキレバーを手前に引いて、刃物ブレーキが解除されていることを確認してください。
2. プーリーカバーのボルト4本を外してください。
3. プーリーカバーを取り外してください。



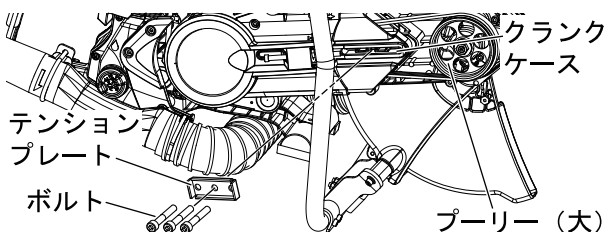
4. 古いファンベルトは、プーリー（大）を回しながら手前にずらして取り外してください。



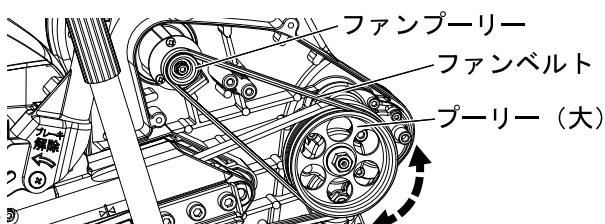
5. テンションスクリューをゆるめてください。カッターアームを固定しているボルト3本とテンションプレートを外してください。
6. クラッチカバーのボルト2本をゆるめ、クラッチカバーを取り外してください。ボルトはクラッチカバーから外れないようになっています。
7. 古いメインベルトを外してカッターユニットを取り外してください。



8. 新しいメインベルトをプーリー（小）に掛けてください。
9. ベルトをカッター方向に引っ張りながら、クラッチカバーを取り付けて、ボルト2本で固定してください。



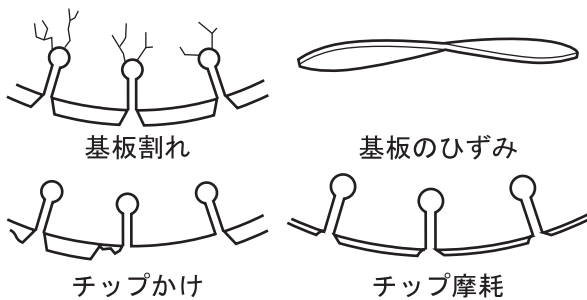
10. カッターアームをクランクケースの長穴にはめてから、プーリー（大）にベルトを掛けてください。
11. テンションプレートを取り付け、ボルト3本を締め付けてから約1回転戻し、メインベルトの張りの調整を行ってください。
12. 取り付けボルト3本を締め付けてカッターアームを固定してください。参考：締め付けトルクは $20\text{N} \cdot \text{m}$ ~ $23\text{N} \cdot \text{m}$ ($200 \sim 230\text{kgf} \cdot \text{cm}$) です。



13. 新しいファンベルトをファンプーリーに組みつけてから、プーリー（大）に引っ掛けて回しながら組みつけてください。
14. プーリーの溝にベルトの溝がはまっていることを確認してください。
15. プーリーカバーを取り付けてボルト4本を締め付けてください。
16. 交換初期はベルトが伸びるため、運転後にメインベルトは再度張りの調整を行ってください。

6. 点検・整備

■ 刃物の点検



外観を良く点検し、基板の割れ、基板のひずみ、チップ欠け、チップの異常摩耗や偏摩耗のあるものは使用しないで新品に交換してください。

切れ味が低下したときは目立てを行ってください。

* 目立ての手順は、刃物をスロー回転（エンジン回転数 4000 ～ 5000 r/min）に落とし、コンクリートブロックまたは柔らかいレンガを 10 回程度切断し、ダイヤモンドの目が出たのを確認してください。

■ 刃物の交換

⚠ 注意

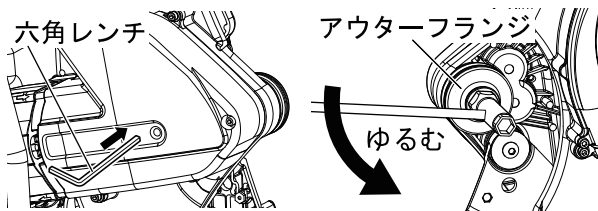
○ 切断作業後しばらくの間は刃物が高温になっていますので、触らないでください。

○ 手袋を着用して、刃物を着脱してください。

ケガや火傷をおう恐れがあります。

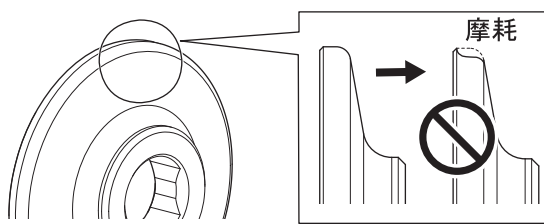
重要

○ 刃物の交換は刃物ブレーキを解除しておこなってください。刃物回り止めのため刃物ブレーキを使用すると、刃物ブレーキ部品やベルト破損の原因となります。



1. ブレーキレバーを手前に引いて、刃物ブレーキが解除されていることを確認してください。
2. 付属の六角レンチをプーリーカバーの穴に差し込んでドライブシャフトを固定してください。
3. 付属のソケットレンチを使用して、ボルトをゆるめ、アウターフランジ、刃物はずしてください。
4. フランジやボルトを清掃してください。
5. 刃物の取り付け手順と注意事項は、9 ページの「刃物の取り付け」を参照してください。

■ フランジの点検



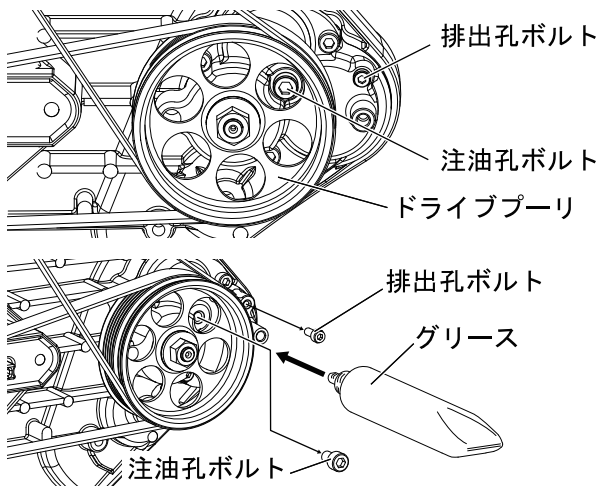
外観をよく点検し、摩耗やひび、割れを確認してください。

外周が摩耗すると、刃物を押さえる範囲が小さくなり破損しやすくなり危険です。

異常がある場合は新品と交換してください。

6. 点検・整備

■ギヤ部の注油

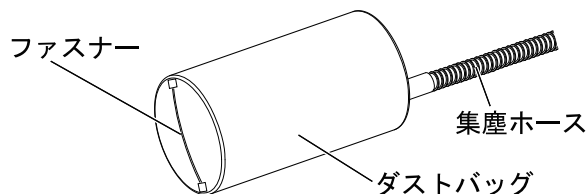


1. プーリーカバーを外してください。
2. 排出孔ボルト (M4x10) を外してください。
3. ドライブプーリを手で回して、ドライブプーリ 6 穴のいずれかから注油孔ボルトが見えるよう位置合わせします。そこから注油孔ボルト (M6x10) を外してください。
4. 注油孔からグリースを注入してください。(リチウム系グリース 20g 程度)。古いグリースは新しいグリースに押されて排出孔から出てきます。出てきたグリースはふき取ってください。
5. 注油後は注油孔ボルト、排出孔ボルトを取り付けてください。
6. プーリーカバーを取り付けてください。

■ダストバッグの清掃

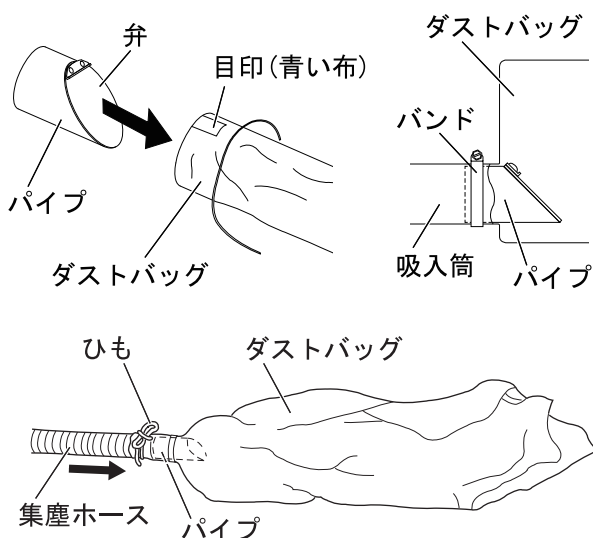
⚠ 注意

- ダストバッグを清掃する際には保護めがねと防塵マスクを着用してください。
 - ダストバッグを清掃する際に切削粉が周囲に飛散しないよう注意してください。
- 切削粉を吸い込んだり、目に入る恐れがあります。



1. ダストバッグにたまった切削粉を捨ててください。
2. ダストバッグのホース取付け口にはパイプ（逆流防止弁）が取り付けられています。ファスナーを開いて切削粉を捨ててください。
3. ダストバッグはぬれないようにしてください。ぬれた場合は良く乾燥させてから使用してください。
4. ダストバッグが破損したり、ファスナーが閉まらなくなると切削粉がもれますので、新品に交換してください。

■ダストバッグの組み付け



清掃などでダストバッグからパイプ（逆流防止弁）を取り外した場合は、以下の手順で組み付けてください。

1. ダストバッグにパイプを差し込み、ダストバッグの目印（青い布）が真上のとき、パイプの弁が上向きになるようにしてください。
2. パイプの弁がダストバッグの吸入筒より中に入るよう確認し、バンドで締め付けてください。
3. 集塵ホースの排出側をダストバッグ内のパイプの奥まで差し込んでください。ダストバッグに付いているひもで集塵ホースをしばって固定してください。

7. 保管



警告

○ 燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のあるそばに保管しないでください。
火災の原因となります。



重要

○ 横置き禁止：横置きで保管しないでください。

ブリーザーバルブからオイルが漏れて、汚れる恐れがあります。

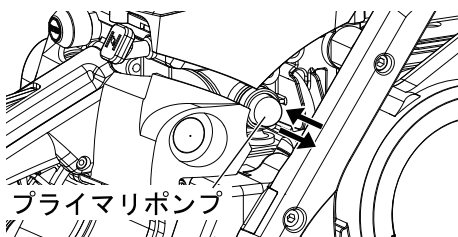
○ 2サイクルオイルを空で保管しないでください。

次回使用時に焼付きの原因となります。

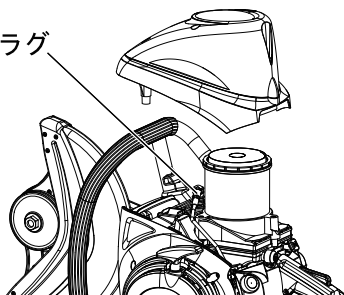
○ 炎天下での車内等、高温（60℃以上）になる場所で保管しないでください。

オイルセンサー破損の原因となります。

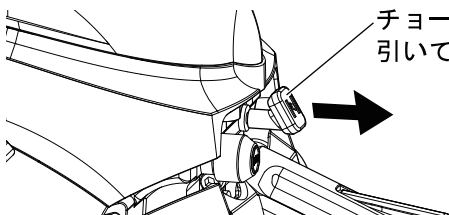
○ 製品を長期間（30日以上）にわたって保管する場合は、下記の手順で整備をしてください。



スパークプラグ
キャップ



チョークノブを
引いて保管



1. 燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。
2. プライマリポンプを数回押してプライマリポンプの燃料を抜き取ってください。
3. エンジンを始動し、自然に停止するまで運転してください。
4. 2サイクルオイルは空にせず、全容量の半分以上タンク内にある事を確認して下さい。
5. 製品の外側に付いたグリース、オイル、ホコリ、ゴミなどをきれいに拭き取ってください。
6. 本書に定められた定期的な点検をしてください。
7. スクリュー、ナット類が締まっているか確認してください。ゆるんでいる場合は、増し締めしてください。
8. ダストバッグ、集塵ホースは取り外して清掃してください。
9. スパークプラグを外し、適量（10 mL 程度）の2サイクルエンジンオイルをシリンダに入れてください。
10. スパークプラグの取り付け穴の上にきれいな布を掛けてください。
11. スタータグリップを数回引いて、エンジンオイルをシリンダ内に行き渡らせてください。
12. スタータグリップをゆっくり引き、ピストンが最も上のところで止まるようにしてください。
13. スパークプラグを取り付けてください。
（スパークプラグキャップは接続しないで、はさまないようにエアクリーナカバーを取り付けてください）
14. チョークノブを引いた状態で保管してください。
15. 刃物を取り外し、子供の手の届かないホコリの少ない乾燥した場所に正立で保管してください。
16. 刃物は乾燥した場所で、ゆがまないように保管してください。

8. 故障対策

8-1. 故障診断表

重要			
○ 補用品や消耗品は必ず純正部品または指定品を使用してください。 純正または指定以外の部品を使用すると故障の原因となる場合があります。			
故障内容	故障診断	原因	対策
エンジンが始動しない	キャブレタに燃料がない	燃料が入っていない 燃料フィルタの目詰まり 燃料系統の目詰まり キャブレタ不良、内部固着	燃料補給 交換 販売店へ依頼 販売店へ依頼
	キャブレタに燃料がある	燃料の変質 燃料の吸い込みすぎ 電氣的障害 エンジン内部の故障	新しい燃料と交換 スパークプラグの乾燥 販売店へ依頼 販売店へ依頼
	オイルタンクに 2 サイクルオイルがない	潤滑不良によるエンジンの焼き付き	販売店へ依頼
	オイルタンクに 2 サイクルオイルが半分以上ある	オイルセンサーの故障	販売店へ依頼
エンジンが始動しにくい、 また回転が変動する	キャブレタに燃料がある	燃料の変質 キャブレタ不良	新しい燃料と交換 販売店へ依頼
	スパークプラグが汚れている、または濡れている	燃料の変質 電極の火花隙間が正しくない カーボンが付着している 電氣的障害	新しい燃料と交換 調整か交換 清掃か交換 販売店へ依頼
エンジンは始動するが 加速できない		エアフィルタの汚れ 燃料フィルタの汚れ 燃料通路の詰まり キャブレタ調整不良 排気口、マフラ出口の詰まり 刃物ブレーキが作動している	交換 交換 販売店へ依頼 販売店へ依頼 清掃か販売店へ依頼 ブレーキを解除する
エンジンが停止する		キャブレタ調整不良 電氣的障害	調整 販売店へ依頼
	オイル油面が下限ライン 付近にある	オイルセンサーが作動している	オイルタンクを満タンにする
エンジンが停止しない		ストップスイッチ不良	応急停止後販売店へ
アイドリング状態で 刃物が動く		キャブレタ調整不良 クラッチ破損	調整 販売店へ依頼
切れ味の低下		ダイヤモンドブレードの性能 ベルトのゆるみ	交換または目立て 調整

* 表中に記載されていない故障など、ご不明な点はお買い求めの販売店にご相談ください。

8-2. 製品の廃棄

○ 製品や部品を廃棄するときは、お買い求めの販売店に相談するか、自治体の指導に従ってください。

9. 仕様

区 分	項 目	単 位	仕 様
			MCH - 302BS
寸 法	長 さ	mm	692
	幅		285
	高 さ		456
質 量		kg	13.5
エンジン	形 式	—	空冷2サイクル単シリンダ
	排 気 量	mL	73.5
	キャブレタ	—	ダイヤフラム式
	マグネット	—	フライホイールマグネット電子点火方式
	スパークプラグ	—	NGK BPM7A(チャンピオン CJ6Y 互換性あり)
	始 動 方 法	—	リコイルスタータ
	動 力 伝 達 方 法	—	自動遠心クラッチ
燃 料	燃料		レギュラーガソリン
	タンク 容 量	L	0.64
潤滑油	潤滑油		2サイクル専用オイル（50：1用） J A S O 性能分類 FD
	タンク 容 量	L	0.36
オイルセンサー	センサー方式		マグネットフロート方式
ブレードブレーキ	ブレーキ方式		慣性機械式 外周バンドブレーキ方式
切 断	最大深度	mm	123
使用刃物	ダイヤモンドブレード ※2		
	外径 × 厚さ × 内径	mm	305 × 2.6 × 30.5
	最高使用周速度	m/s	70 以上
周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値		4.8 m/s ²	
振動測定の準拠規格		ISO 19432 : 2012	

(寸法；刃物を除く)
(質量；刃物・燃料を除く)

* この仕様は予告なしに変更することがあります。

※1. 2サイクル専用オイル以外を使用した場合、オイルセンサーが正常に作動しない可能性があります。

※2. ダイヤモンドブレードは別売り品です。

本機は乾式ダイヤモンドブレード専用機です。

10. 振動障害の予防

2009年に厚生労働省から振動障害予防対策として、日振動ばく露量を抑制する指針が出されました。指針の内容を理解のうえ、日振動ばく露量の低減に努めてください。

- ◆ 指針の詳細は安全衛生情報センターのホームページ (<http://www.jaish.gr.jp/>) の通達一覧から参照してください。
- ◆ チェンソー以外の振動工具の取扱い業務に係る振動障害予防対策指針について
平成 21 年 7 月 10 日 基発 0710 第 2 号
(<http://www.jaish.gr.jp/anzen/hor/hombun/hor1-50/hor1-50-27-1-0.htm>) を参照してください。

10-1. 日振動ばく露量 A(8)

○「周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値」と1日当たりの振動ばく露時間から、次式により日振動ばく露量 A(8) を求めてください。

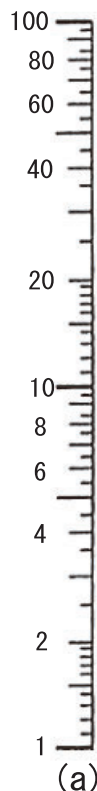
- ◆ 日振動ばく露量 A(8) は 5 m/s^2 以下となるように振動ばく露時間（作業時間）T を設定してください。
- ◆ 1 日当たりの振動ばく露時間（作業時間）T は 2 時間以下で設定してください。

$$\text{日振動ばく露量：} A(8) = a \times \sqrt{\frac{T}{8}} \quad [\text{m/s}^2]$$

(注) a [m/s^2]：周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値（本体表示ラベル又は、34 ページの「仕様」参照）
T [時間]：1 日の振動ばく露時間

○日振動ばく露量 A(8) は、下記のノモグラムからも求めることができます。このノモグラムの使用法は、(a) に「周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値」をプロットし、(c) に「振動ばく露時間」をプロットし、その2つの点を結ぶことにより (b) の「日振動ばく露量 A(8)」を求めることができます。

周波数補正振動加速度
実効値の3軸合成値
a (m/s^2)

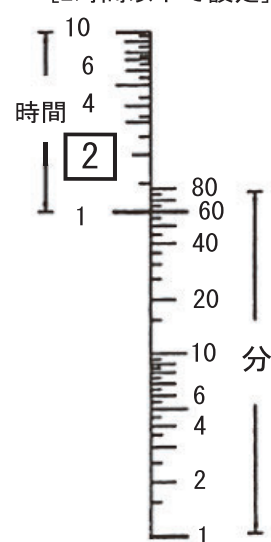


日振動ばく露量
A(8) (m/s^2)
[5 m/s^2 以下]



ノモグラム

振動ばく露時間
T (時間)
[2 時間以下で設定]



10. 振動障害の予防

10-2.1 日に複数の振動工具を使用する場合

- 1日に複数の振動工具を使用する時は、下表を利用して個別作業ごとの「振動ばく露量： $A_i(8)$ 」を求め、最終的な「日振動ばく露量： $A(8)$ 」を計算します。
- 複数の振動工具を使用する場合でも、その振動ばく露時間が「日振動ばく露限界値（ $A(8) : 5.0 \text{ m/s}^2$ ）および「日振動ばく露対策値（ $A(8) : 2.5 \text{ m/s}^2$ ）」を超えるかが判断出来ます。
- ◆ 1日当たりの振動ばく露時間（作業時間）：Tは合計で2時間以内で設定してください。
 - ◆ 日振動ばく露量 $A(8)$ は： 5 m/s^2 以下となるように、各振動工具の振動ばく露時間（作業時間）Tを設定してください。

	個別の作業番号 (i)						合計	2時間以内 日振動ばく露量$A(8)$ (m/s^2) $A(8) = \sqrt{\sum A_i(8)^2}$ 5m/s^2以下
	1	2	3	4	5	6		
3軸合成値 $a_i (\text{m/s}^2)$								
振動ばく露時間 $T_i (\text{時間})$								
$A_i(8) = a_i \times \sqrt{\frac{T_i}{8}}$							$\sum A_i(8)^2$	
$A_i(8)^2$								

1. ノモグラム（35 ページの「日振動ばく露量 $A(8)$ 」に記載）に、個別作業の周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値を (a)、振動ばく露時間を (c) にプロットし、2つの点を結んで個別の振動ばく露量 (b) $A_i(8)$ を読み取り、上記の表に記入します。個々の作業がいくつもある場合は同様の操作を繰り返し、 $A_i(8)$ を求め上記表に記載します。
2. 個々の作業の $A_i(8)$ の2乗を計算し、全ての作業別の値の合計を求め上記表に記載します。
3. 2. で求めた値の平方根を求め表に記載します。この値が「日振動ばく露量 $A(8)$ 」になります。

* 上テーブルは、(http://www.jaish.gr.jp/information/mhlw/nichishindo_bakuroryo.xls) を使用して求めることが出来ます。

メ 毛

メ モ

メ モ

Mikasa

MIKASA SANGYO CO., LTD.

1-4-3, Kanda-Sarugakucho, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0064, Japan

三笠産業株式会社

〒101-0064 東京都千代田区神田猿楽町1-4-3

修理に関するお問合せ

TEL 048-734-2402 FAX 048-734-7678

部品に関するお問合せ

TEL 048-734-2401 FAX 048-736-6787

その他のお問合せ

info@mikasas.com

Web パーツリスト

<https://www.mikasas.info/MIKASA/JA/>



©2025 三笠産業株式会社